



Voice & Vision

2009年3月期 株主通信
2008.4.1 >>> 2009.3.31

CONTENTS

CEOメッセージ	01
総括・2009年3月期	03
当期の決算概況	07
連結財務諸表(要約)	08
株式情報	11
コーポレートデータ	12
IRコミュニティ	13

長期的な将来ビジョンによって実 フィールズは着実に歩みを進めて

企業理念に込めたフィールズの

想い

「すべての人に最高の余暇を」。この企業理念には、かつての高度成長期を経て、また医療やテクノロジーの進化によって創出された長寿命社会や余暇増大社会に対して最高のエンタテインメントを提供することで、多くの人の幸せに寄与したいとの想いが込められています。

当社は、この想いを実現するために、創業からの20年間は、パチンコ・パチスロ分野を中心に、その健全化と市場の拡大に資する取り組みに注力してきました。そして今後ますます社会の豊かさに裏打ちされた選択の自由が加速していく中で、未来の人々を見据えた新たなエンタテインメントを実現することが当社の責務であると感じています。

「感動」と「興奮」をもたらす優れたエンタテインメントの創出、この我々にしかできないことに果敢に挑戦し続け、その成果をもって、すべての人の幸せに寄与する企業を目指していきます。

先見性と提案性・創造性による

成長発展

パチンコを世の中の人にとって価値のあるレジャーに成長発展させる、まずはこの実現に向け、当社は1988年に事業を開始しました。

最初の10年間は、パチンコホールを安全で安心な場所とするため、パチンコホールに対してサービス、空間、遊技機のあり方などを中心とした提案活動に注力しました。

そして次の10年間は、遊技機をより多くの人々に愛され、親しまれる存在とするために、大手遊技機メーカーと提携し、商品化権や商品企画などの提供を通じて、ゲーム性やエンタテインメント性を追求した遊技機を創出し、その実績を積み上げてきました。

このような先を見据えた取り組みは、今後も変わることはありません。先見性と提案性・創造性を兼ね備えた我々は、パチンコ市場の健全化と発展のために尽力し、当社自身も成長発展を遂げていきたい、そう考えています。

現する未来、 おられます。



代表取締役会長 (CEO) **山本 英俊**

長期的な将来ビジョンによって実現する

未来

21 世紀に生きるすべての人に最高の「感動」と「興奮」を提供したい、これが我々の目指すべき未来であり、企業活動を通じた社会的な責務であると確信しています。

この未来のあるべき姿の実現に向けて、我々は長期的な将来ビジョンとなる中期経営計画を策定しました。当期はその第一期目となり、まずは今あるべき姿を見つめ直すことに着手しました。その施策の一環として事業ポートフォリオの再構築を図り、経営資源の多くを中核事業のパチンコ・パチスロ分野に集中し、今後の成長に向けた基盤整備を進めています。

そしてその先は、時間消費型余暇のパイオニアとして躍進するための基盤を構築していきます。これまで以上にあらゆるエンタテインメント分野の市

場環境や成功事例などを情報収集し、徹底的に分析、研究を重ねることにより、未来の人々のニーズやウォンツを掘り起こす新たなエンタテインメントの創出を目指していきます。

当社にしかできないこと、我々がやらなければならないこと、これらを常に意識して追求し、実現していくことにより、大きな成長を遂げることはもとより、社会全体ならびに株主の皆様の利益に寄与するよう努めていきます。

株主の皆様におかれましては、当社グループが長期的な将来ビジョンによって実現していく未来にご期待いただき、引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



中長期的な展望を見据え、 確実な成長を目指します。

代表取締役社長 (COO) 大屋 高志

Q1. 中核ビジネスである PS (パチンコ・パチスロ) 事業での 市場環境は？

パチンコ市場については、設置台数は増加傾向にあり、堅調に推移しています。一方、昨今のパチンコホールにおける遊技機の導入傾向は、一時的ではありますが射幸性が高まりつつあり、ファンの初期投資金額が増加傾向にあります。こうした中、パチンコメーカー団体は健全化に向けて2009年4月から自主規制を行い、射幸性は抑制されることとなりました。しかしながら自主規制前に射幸性の高い遊技機が多数販売され、ホールに導入されたという事実もあります。

また、パチスロ市場については、設置台数は減少傾向であり、かつ販売台数が最盛期の半分以下という厳しい市場環境になっています。新規則下では、かつての射幸

性ではなく、ゲーム性やエンタテインメント性を重視した遊技機の企画・開発が求められており、今後はさらに創り込まれファンに受け入れられる遊技機が待望されています。

このような中、業界の健全化と発展に向けて、パチンコ・パチスロがより多くの人にとって、より価値のあるものでなければならないと考えています。そして、射幸性に依存することなく、ゲーム性やエンタテインメント性に優れた遊技機を企画・開発し提供していくことが当社の最重要課題であると認識しています。

ゲーム性、エンタテインメント性の追求へ。この流れは間違いなく業界を健全な方向へと導きます。現在の急激な景気の変動により、余暇市場においては「安・近・短」といった身近なレジャーが注目を集めています。その中でパチンコ産業が娯楽として健全化を推進することが、ユーザー層の拡大、ひいては市場の活性化に繋がるものと確信しています。

Q2. 2009年3月期の取り組みと、その手応えや成果は？

施 策の中で最も大きかったものは、停滞する市場を喚起し、より幅広いファンを生み出していくことを目指した「新機軸パチンコ遊技機」の企画・開発でした。その第一弾として発売したパチンコ遊技機が「CR七人の侍」です。これは、パチンコを従来のファンだけでなく、多くの皆様が楽しめる映像エンタテインメントとするため、名作映画である「七人の侍」をパチンコのためだけに新たに掘り下ろすという、史上初の試みを行いました。結果として、このコンセプトが大きな反響を呼び、業界に投じた布石としては十分な手応えと自信が得られました。次期以降においても、このコンセプトを持った取り組みを進め、さらなるファン層の拡大を図っていきます。

もう一つの重要な施策は、現在の流通の拠点である支社・支店のポジションを変革し、より先進的なものにしていく取り組みです。当社が企画・開発した遊技機を提供していく中で、その高いエンタテインメント性をご理解いただくためには、十分なスペースとホスピタリティを備えたプレゼンテーション設備が必要となります。そのため、高機能なショールームを有した名古屋支社・支店を全国に先駆けてオープンしました。さらに、商品の理解促進を目指して、Webを活用したプロモーションも開始しました。これらの取り組みは、遊技機メーカーやパチンコホールの皆様から極めて高い評価をいただいています。

今後は、次世代のベンチマークとなる流通拠点と、次世代のプロモーションの中核となるWebを両軸として、さらなる営業力の強化を図っていきます。

Q3. 2009年3月期の業績とその要因は？

当 期の連結業績は、売上高730億円、営業利益19億円、経常利益9億円、当期純損失14億円となりました。

期初の計画に達しなかったことは十分反省が必要ですが、これは中長期的な将来利益の確保を目指した施策を積極的に実施したことによるものです。

業績修正に至った主な要因は二点あり、一点目は、市場環境を勘案し、当第4四半期に販売を予定していたパチンコ遊技機「CR新世紀エヴァンゲリオン～最後のシ者～」の販売スケジュールを戦略的に見直し、次期の販売としたためです。この見直しは功を奏し、本機は同シリーズ最高の販売台数となり、次期の利益に大きく寄与する見込みです。

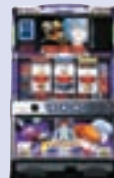
二点目は、ゲーム事業を展開していた(株)ディースリーの株式を、(株)バンダイナムコゲームスへ譲渡したことに伴い、当期に株式評価損失等を計上したためです。この株式譲渡は、将来のゲーム事業における(株)バンダイナムコゲームスとの協力体制構築も視野に入れた戦略の一環となっています。

これらの特別な要因以外においては、事業全体としては順調に推移しました。中でも、(株)フューチャースコープが提供するWebサービス(モバイル)など、PS事業との相乗効果の高いビジネスにおいては着実に実績を積み上げており、今後もより一層の収益化を目指していきます。

2009年
3月期
発売



CR七人の侍
黒澤プロダクション
©三船プロダクション
©BP/PC ©FIELDS
©Bisty



CR新世紀エヴァンゲリオン
～約束の時～
©GAINAX・カラー
/Project Eva.
©Bisty

2010年
3月期
発売



CR新世紀エヴァンゲリオン
～最後のシ者～
©カラー ©カラー・GAINAX
©Bisty

Q4. 2010年3月期ならびに 中長期的な展望は？

次 期の連結業績は、売上高700億円、営業利益100億円、経常利益100億円、当期純利益45億円を計画しており、利益の大幅な回復を見込んでいます。

PS事業においては、すでにパチンコ遊技機「CR新世紀エヴァンゲリオン～最後のシ者～」を投入しており、市場より高評価をいただいています。また、新たなエンタテインメントの創出を目指した新機軸タイトル第2弾のパチンコ遊技機や、人気タイトルを中心としたパチスロ遊技機を投入していきます。グループ事業においては、各分野の構造改革をさらに進め、収益性を確立し、連単倍率1.0以上を目標に各種施策を推進していきます。

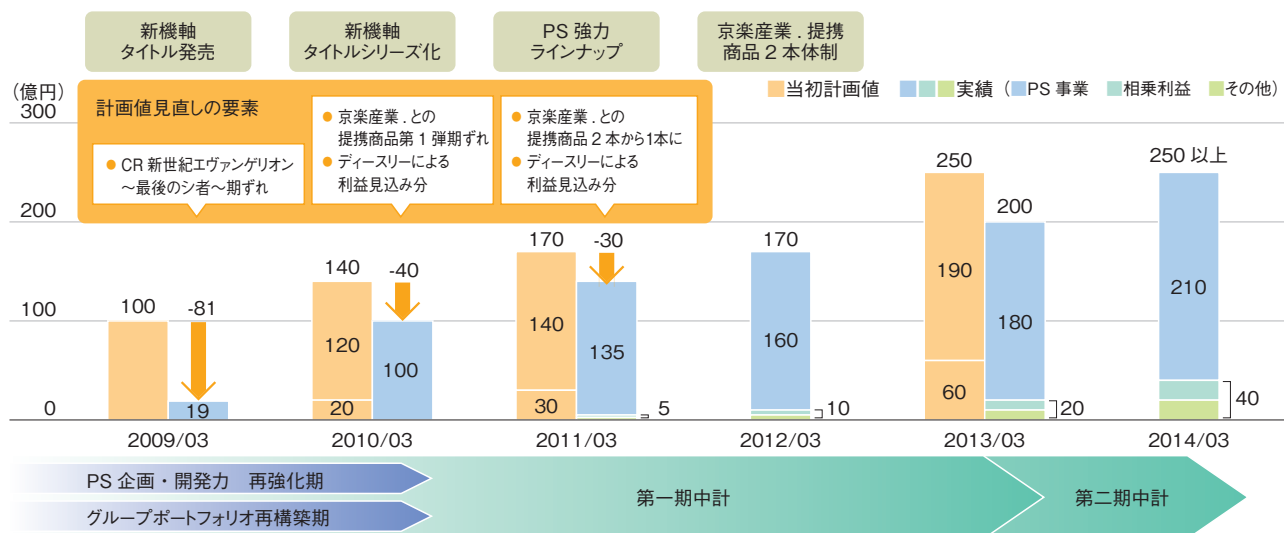
中長期的な展望としては、企業理念である「すべての人に最高の余暇を」の実現に向け、10年後あるべき姿を目指した第一期中期経営計画を推進しています。

その中で、PS事業においては、収益の拡大を目指し、パチンコ業界における流通のリーディングカンパニーとして、新たなファン層の拡大に向けた取り組みを実施するとともに、企画・開発体制の強化を図り、さらなる収益機会を見出していきます。

グループ事業においては、多くの経営資源を中核であるパチンコ・パチスロ分野に集中し、PS事業と直結する関連ビジネスを強化することによって成長性の確立を行うとともに、新たなエンタテインメントの創出に向けた仕組みの構築を図っていきます。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 2014年3月期 250億円以上目標 ※グループ・協業利益20%寄与目標



グループポートフォリオの再構築と今後の展開

グループポートフォリオの再構築

これまで当社グループは、中核事業であるPS事業とのシナジーを発揮できるコンテンツの開発に取り組み、多様なグループ事業を展開してきました。しかしながら、映像ビジネス市場を中心とする急激な事業環境の変化に伴い、グループ事業の一部に財務体質の悪化が顕著化する状況となりました。そのため、パチンコ・パチスロ分野への投資の比重を高めつつ、コンテンツマルチユースモデルの見直しとその他事業分野へのR&D(研究・開発)を強化する方針としました。

その結果、映像、その他・フィールドでは、フィールズピクチャーズ(株)と、ホワイトトラッシュチャームズジャパン(株)の2社を2009年1月に当社へ吸収合併しました。ゲーム・フィールドでは、(株)シンクアーツを解散し2009年3月に清算終了するとともに、(株)ディースリーについては、(株)バンダイナムコゲームスが実施した同社への株式公開買付けに応募する形で株式譲渡を実施し、2009年3月24日をもって当社の連結子会社から外れることになりました。

グループ事業の今後の展開

現在のグループ事業においては、Webサービス・フィールドで(株)フューチャースコープが展開している携帯コンテンツが順調に成長しています。また、その他・フィールドでアニメーションの企画・制作を行うルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)は、業界随一のクオリティで高く評価されている(株)STUDIO4℃と戦略的提携を結び、共同でアニメーションスタジオ「L4C」を設立し、2009年末に提携後第一弾作品の発表を目指しています。

今後の展開として、時間消費型余暇市場に注力した事業展開を図るために、人材および物財ならびに、将来価値の高い事業への投資を進めていきます。



LUCENT
PICTURES



戦略的提携で
設立された
「L4C」



「フィールズモバイル」へは、
こちらからアクセスして
ください。

最高のサービスやコンテンツの創出を目指して

グループ事業が成功するためには、二つの要素が必要です。一点目は、近い将来から遠い未来にかけて、すべての人々に最高のサービス・コンテンツを提供するためのクリエイティブです。二点目は、当社グループが永続的に発展し続けるための組織やビジネスストラクチャーなどの「仕組み」づくりです。このためには、優秀な人材を獲得し、ネットワーク化することが必要であり、この実現によって、未来のすべての人々に向けた最高のサービス・コンテンツを創造し、提供していくことが可能となります。そのため、人材獲得のみならず、パートナー企業との提携関係や「仕組み」の構築が重要なファクターであると考えております。

この「仕組み」の構築に向けて、徹底的に時間消費型余暇市場においての情報収集、分析、研究を重ね、新たなエンタテインメントを創出すべく、一層積極的に取り組んでいきます。

専務取締役 グループ戦略本部長 繁松 徹也



当期の決算概況

営業の概況

当期は、PS事業においては、市場の多様なニーズに合わせ、エンタテインメント性、ゲーム性の高い遊技機を積極的に投入しました。一方、グループ事業においては、事業ポートフォリオの再構築を図り、各事業を見直した結果、多くの経営資源を中核事業であるPS分野に集中させることとし、PS分野とのシナジー発揮に時間を要する事業やオンリーワンカンパニーを目指す戦略的育成事業以外への投資等を一旦抑制、整理しています。

この結果、売上高73,035百万円、営業利益1,960百万円、経常利益991百万円、当期純損失1,481百万円となりました。

(PS・フィールド)

パチンコ遊技機においては、「CR 七人の侍」(約82,000台販売)など6機種を投入し総販売台数は202,525台、パチスロ遊技機においては、「新世紀エヴァンゲリオン～約束の時～」(約90,000台販売)など5機種を投入し総販売台数は128,680台となりました。

(ゲーム・フィールド)

世界的な金融不安に伴う急激な景気後退などによる、国内外でのゲームソフトの販売落ち込みの影響などにより低調な結果となりました。

(スポーツ・フィールド)

スポーツビジネス全般の抜本的な見直しを行うなど改革を進め、事業の再構築を図りました。

(映像・フィールド)

映画制作として投資した1作品の興行成績が低調であり、出資金の費用化を実施しました。

(Webサービス・フィールド)

(株)フューチャースコープが運営する主力携帯コンテンツ「フィールズモバイル」の有料会員数の増加により堅調に推移しました。

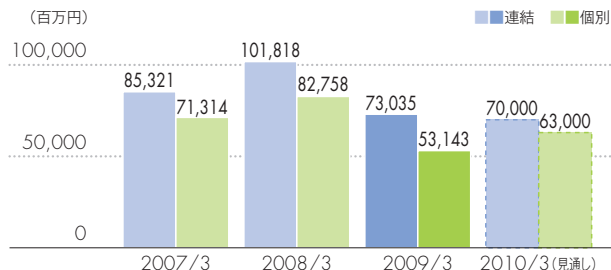
(その他・フィールド)

ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント(株)において、高品質なアニメーション映像を生み出す制作環境基盤の構築を図るなど、次期に向けた取り組みを実施しました。

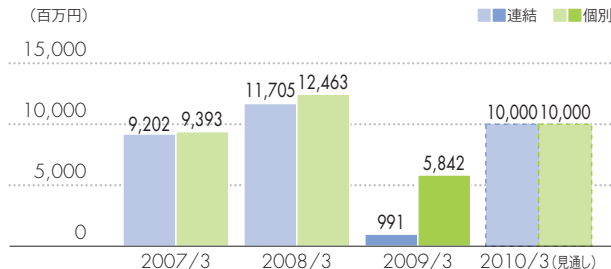
なお、詳細な数値等につきましては、次頁以降をご参照下さい。

収益指標の推移

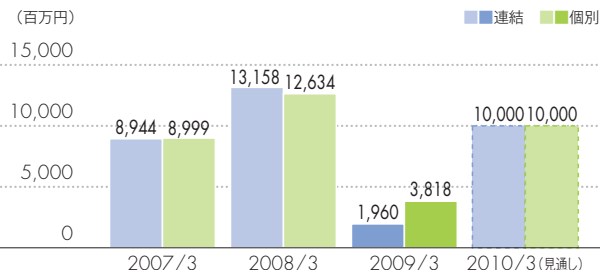
売上高



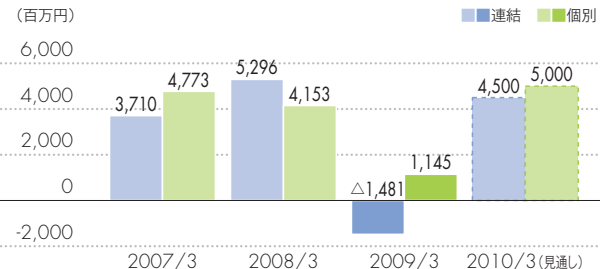
経常利益



営業利益



当期純利益又は当期純損失(△)



連結財務諸表(要約)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結 会計年度末 2008年3月31日現在	当連結 会計年度末 2009年3月31日現在
資産の部		
流動資産	39,559	25,135
現金及び預金	12,841	11,181
受取手形及び売掛金	12,354	4,324
たな卸資産	4,013	—
商品及び製品	—	150
仕掛品	—	640
原材料及び貯蔵品	—	173
繰延税金資産	2,271	545
商品化権前渡金	4,397	3,591
未収入金	—	3,223
その他	3,774	1,383
貸倒引当金	△92	△77
固定資産	29,609	26,929
有形固定資産	8,093	10,898
無形固定資産	3,937	2,761
投資その他の資産	17,578	13,268
投資有価証券	13,212	7,989
長期貸付金	102	101
繰延税金資産	790	1,862
敷金及び保証金	2,893	2,707
その他	934	863
貸倒引当金	△355	△256
① 資産合計	69,168	52,064

Point 1 資産合計/負債純資産合計

資産合計及び負債純資産合計は、52,064百万円と前連結会計年度末比17,103百万円の減少となりました。これは主に受取手形及び売掛金、支払手形及び買掛金の減少、(株)ディースリーの連結範囲の除外によるものです。

Point 2 自己株式

自己株式は、△1,330百万円と前連結会計年度末比1,330百万円の増加となりました。これは、固定価格取引により自己株式の取得を実施したためです。

科目	前連結 会計年度末 2008年3月31日現在	当連結 会計年度末 2009年3月31日現在
負債の部		
流動負債	19,322	7,547
支払手形及び買掛金	5,954	1,981
短期借入金	3,398	—
1年内返済予定の長期借入金	804	61
1年内償還予定の社債	120	720
未払法人税等	3,743	263
賞与引当金	174	211
役員賞与引当金	128	245
受注損失引当金	49	—
事務所移転損失引当金	32	9
その他	4,915	4,056
固定負債	3,514	5,021
社債	250	2,230
長期借入金	434	—
退職給付引当金	211	221
長期預り保証金	2,459	2,569
その他	158	0
負債合計	22,836	12,568
純資産の部		
株主資本	44,795	40,420
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,994	7,994
利益剰余金	28,852	25,808
② 自己株式	—	△1,330
評価・換算差額等	△309	△957
その他有価証券評価差額金	△249	△956
為替換算調整勘定	△59	△0
新株予約権	43	—
少数株主持分	1,802	32
純資産合計	46,331	39,496
① 負債純資産合計	69,168	52,064

連結財務諸表の作成のための基本となる重要な事項の変更(表示方法の変更)

財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成20年8月7日内閣府令第50号)が適用となることに従い、前連結会計年度において、「たな卸資産」として掲記されていたものは、当連結会計年度から「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」及び「コンテンツ」に区分掲記しております。但し当連結会計年度末において「コンテンツ」の残高はありません。なお、前連結会計年度の「たな卸資産」に含まれる「商品及び製品」、「仕掛品」、「原材料及び貯蔵品」及び「コンテンツ」は、それぞれ475百万円、2,513百万円、133百万円、890百万円であります。

連結財務諸表(要約)

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2007年4月1日から 2008年3月31日まで	2008年4月1日から 2009年3月31日まで
③ 売上高	101,818	73,035
売上原価	67,274	49,010
売上総利益	34,544	24,024
販売費及び一般管理費	21,385	22,063
④ 営業利益	13,158	1,960
営業外収益	313	528
営業外費用	1,766	1,497
経常利益	11,705	991
特別利益	97	269
⑤ 特別損失	1,292	3,840
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	10,509	△2,579
法人税、住民税及び事業税	6,022	388
法人税等調整額	△921	△514
少数株主利益又は少数株主損失(△)	111	△971
当期純利益又は当期純損失(△)	5,296	△1,481

Point 3 売上高

売上高は、73,035百万円と前連結会計年度比28,783百万円の減少となりました。これは主に、PS・フィールドにおける代理店販売(パチスロ遊技機の仕入販売)の台数が減少したことによるものです。

Point 4 営業利益

営業利益は、1,960百万円と前連結会計年度比11,198百万円の減少となりました。これは主に、PS・フィールドにおける大型タイトルの販売時期直し並びにゲーム・フィールドのゲームソフトの販売不振によるものです。

セグメント情報① 売上高

(単位:百万円)

セグメントの名称	前連結会計年度	当連結会計年度
	2007年4月1日から 2008年3月31日まで	2008年4月1日から 2009年3月31日まで
PS・フィールド	82,763	55,724
ゲーム・フィールド	14,528	12,593
スポーツ・フィールド	4,993	3,589
映像・フィールド	68	73
⑥ Webサービス・フィールド	758	1,609
その他・フィールド	98	56
消去又は全社	△1,393	△612
合計	101,818	73,035

セグメント情報② 営業利益

(単位:百万円)

セグメントの名称	前連結会計年度	当連結会計年度
	2007年4月1日から 2008年3月31日まで	2008年4月1日から 2009年3月31日まで
PS・フィールド	12,747	4,031
ゲーム・フィールド	952	△1,289
スポーツ・フィールド	△311	△537
映像・フィールド	△154	△503
⑥ Webサービス・フィールド	29	455
その他・フィールド	△80	△176
消去又は全社	△24	△19
合計	13,158	1,960

Point 5 特別損失

特別損失は、3,840百万円と前連結会計年度比2,548百万円の増加となりました。これは主に、子会社における制作中止損、子会社清算に伴う関係会社整理損、投資有価証券評価損及び有価証券売却損によるものです。

Point 6 セグメント区分の変更

従来「その他・フィールド」に含めて表示しておりました「スポーツマネジメント」「映像」「Webサービス」の各事業につきまして、金額的重要性が増したため、当連結会計年度より区分表示することになりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度	当連結会計年度
	2007年4月 1日から 2008年3月31日まで	2008年4月 1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,127	4,147
7 投資活動によるキャッシュ・フロー	△14,604	△6,182
8 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,384	602
現金及び現金同等物に係る換算差額	△275	△79
現金及び現金同等物の減少額	△5,136	△1,512
現金及び現金同等物の期首残高	17,819	12,693
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	10	—
現金及び現金同等物の期末残高	12,693	11,181

Point 7 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、6,182百万円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出4,710百万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出793百万円によるものです。

Point 8 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は、602百万円となりました。これは主に、短期借入金の純減額2,898百万円、長期借入れによる収入6,200百万円、長期借入金の返済による支出2,287百万円、社債の発行による収入2,948百万円によるものです。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	株主資本				株主資本 合 計	評価・換算差額等			新 株 予 約 権	少 数 株 主 持 分	純 資 産 合 計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2008年3月31日残高	7,948	7,994	28,852	—	44,795	△249	△59	△309	43	1,802	46,331
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当	—	—	△1,561	—	△1,561	—	—	—	—	—	△1,561
当期純損失	—	—	△1,481	—	△1,481	—	—	—	—	—	△1,481
持分法適用会社の 合併に伴う変動	—	—	△1	—	△1	—	—	—	—	—	△1
自己株式の取得	—	—	—	△1,330	△1,330	—	—	—	—	—	△1,330
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△707	59	△647	△43	△1,769	△2,460
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△3,044	△1,330	△4,374	△707	59	△647	△43	△1,769	△6,835
2009年3月31日残高	7,948	7,994	25,808	△1,330	40,420	△956	△0	△957	—	32	39,496

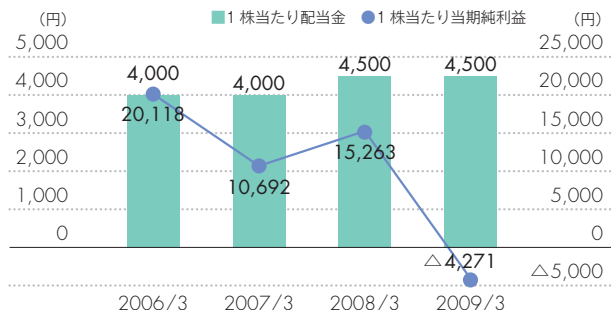
株式の状況

発行可能株式総数	1,388,000株
発行済株式総数	347,000株
自己名義株式	10,643株
株主総数	9,756名

大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
山本 英俊	86,750	25.00
株式会社SANKYO	52,050	15.00
山本 剛史	36,128	10.41
有限会社ミント	16,000	4.61
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	12,691	3.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,397	3.57
大屋 高志	4,500	1.30
バンク オブ ニューヨーク ジャーシエム クライアント アカウト ジェイビーアルディ アイエスジー エイイー・エイシー	4,337	1.25
ザ チェース マンハッタン バンク エヌ エイ ロンドン エスエル オムニバス アカウト	3,942	1.13
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,439	0.99

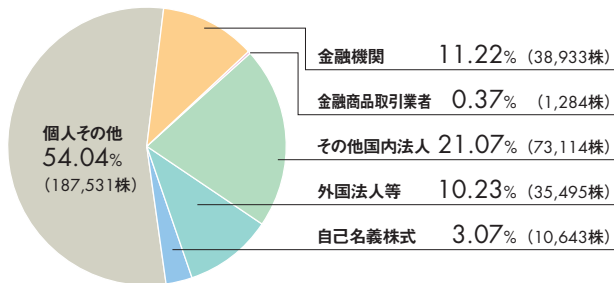
1株当たり配当金及び当期純利益



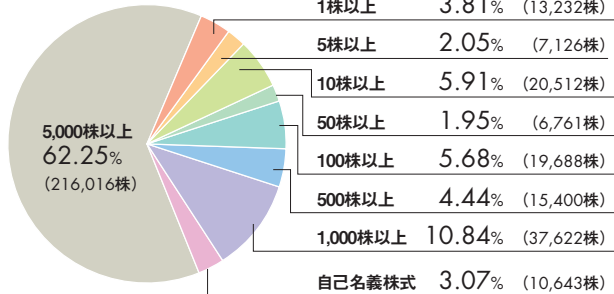
*2008年3月期の1株当たり配当金には、設立20周年記念配当500円を含む。

株式分布状況

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



利益還元方針

企業価値の向上を経営の重要課題と位置づけ、利益に応じた適正な配当を行うことを基本方針としています。具体的には、事業収益やキャッシュ・フローの状況等を基準に決定いたしますが、連結配当性向の基準として20%以上を目指しています。

内部留保金につきましては、財務体質と経営基盤の強化及び継続的な事業拡大と競争力の確保に向けた投資に有効活用していく方針です。

会社概要

商号 フィールズ株式会社
英文社名 FIELDS CORPORATION
企業理念 すべての人に最高の余暇を
設立 1988年6月
本社所在地 〒150-0044 東京都渋谷区円山町3番6号
E・スペースタワー
資本金 7,948百万円
従業員数 827名(連結)
事業内容 1)遊技機の企画開発
2)遊技機の仕入、販売
3)キャラクター、コンテンツの企画開発、販売
4)映像ソフトの企画開発、販売

連結対象会社

フィールズジュニア株式会社
ジャパン・スポーツ・マーケティング株式会社
ルーセント・ピクチャーズエンタテインメント株式会社
株式会社フューチャースコープ
他5社

役員 (2009年6月25日現在)

代表取締役 会長	山本 英俊
代表取締役 社長	大屋 高志
専務取締役(グループ戦略本部長)	繁松 徹也
専務取締役(営業本部・開発本部管掌)	秋山 清晴
社外取締役	糸井 重里
取締役(企画本部長)	栗原 正和
取締役(知的財産本部長)	山口 善輝
取締役(計画管理本部長)	山中 裕之
取締役(コーポレート本部長)	伊藤 英雄
取締役(営業本部長)	藤井 晶
取締役(会長室長)	末 永 徹
社外監査役 常勤	松下 滋
社外監査役	小池 勲夫
社外監査役	古田 善香
社外監査役	中元 紘一郎
執行役員(コーポレートコミュニケーション室長)	畑中 英昭
執行役員(開発本部長)	藤島 輝男
執行役員(営業本部支店統括部長 兼北海道・東北支社長兼東京支社長)	若園 秀夫
執行役員(グループ戦略本部グループ関連事業部長 兼エグゼクティブプロデューサー)	小澤 洋介
執行役員(コーポレートコミュニケーション室担当部長)	糟谷 総一

社会貢献への取り組み



ザ・レジェンド チャリティプロアマトーナメントを開催

スポーツとエンタテインメントとチャリティの融合を目指し、

「2009青木功 日野皓正 フィールズ ザ・レジェンド チャリティプロアマトーナメント」を主催しました。

2009年5月16日、17日にわたり開催された本大会は、「病気の子供達に手を差し伸べたい」という大会趣旨のもと、プロゴルファー青木功氏とその親友であるジャズ・トランペット奏者日野皓正氏の呼びかけにより実現したものです。そしてこの趣旨に賛同したプロゴルファー 31名と著名人や一般アマチュアのべ122名が、プロ・アマ一緒にラウンドする競技を行い、2日間とも大勢のギャラリーを集めました。

表彰式では、熱戦の末に優勝を勝ち取った手嶋多一選手も賞金の一部を寄付し、大会の収益金1,200万円

が「千葉県こども病院」、公益信託「日本白血病研究基金」、財団法人「がんの子どもを守る会」に寄贈されました。また、大会後にも大会期間中に開催されたチャリティオークションやチケットの委託販売などの収益を寄贈する予定です。

当社は本大会を通じて、日本社会にチャリティという考え方が定着化することを確信しました。今後も企業の社会的な責任はもとより、チャリティ定着化のため、より一層積極的な活動に取り組んでいきたいと考えています。

IRサイトへの取り組み



当社IRサイトにおいては、株主・投資家の皆様にとって、利便性の高い情報ツールの提供を目指して、鋭意改善に取り組んでいます。今後も当サイトが有意義で充実した情報提供の場となるよう努めていきます。

日興アイ・アール発表の最優秀サイトに選定

当社IRサイトは、日興アイ・アール株式会社発表の「2008年度 全上場企業ホームページ充実度ランキング」において、「最優秀サイト」(総合ランキング選定・新興市場ランキング3位)、「優秀サイト」(業種別ランキング5位)に選定されました。



IRサイトの優秀企業580社にランクイン

大和インベスター・リレーションズ株式会社が国内上場企業2,082社のIRサイトをレビューし、発表した「インターネットIRサイトの優秀企業580社」に、当社IRサイトがランクインしました。

Gomez IRサイトランキングに選定

インターネットサービスのランキング情報提供で定評のあるゴメス・コンサルティング株式会社が発表した「Gomez IRサイトランキング2009」において、当社IRサイトは、総合ランキングで125位、新興市場ランキングで6位に選定されました。

ジャスダック2008年度IR優良会社に選定



ジャスダック証券取引所の「IR優良会社表彰制度」より、2008年度IR優良会社として選定され、優秀IR賞を受賞しました。

表彰理由として、Webサイトの情報の充実度や、IR資料における詳細な記述及び内容理解のしやすさなどへの評価が挙げられています。

この受賞を大変栄誉に感じつつ、引き続きIR活動の一層の充実を図り、株主並びに投資家の皆様によりお役に立てる情報提供とコミュニケーションの場作りを心がけていきます。

個人投資家向け会社説明会を開催



2008年9月、東京証券会館において個人投資家向け会社説明会（主催：モーニングスター株式会社）を開催しました。

今後とも、会社説明会の定期的な開催など、個人投資家の皆様に向けた積極的なIR活動を推進し、企業活動の理解促進に努めていきます。

株主メモ

事業年度末日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
配当金受領株主確定日	期末配当：3月31日 第2四半期末配当：9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (連絡先・送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-78-2031（フリーダイヤル）
同 取 次 所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
上場証券取引所	JASDAQ
公 告 方 法	電子公告 URL http://www.fields.biz (事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

株式関連手続きのご案内

■住所変更のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

■上場株式配当等のお支払いに関する通知書について

租税特別措置法の平成20年改正（平成20年4月30日法律第23号）により、平成21年1月以降にお支払いする配当金について株主様あてに配当金額や源泉徴収税額等を記載した「支払通知書」を送付することが義務付けられました。
配当金領収書にてお受取の株主様は年末または翌年初に「支払通知書」を送付いたしますのでご覧ください。口座振込を指定されている株主様は配当金支払の際送付している「配当金計算書」が「支払通知書」となります。なお、両書類は確定申告を行う際その添付資料としてご使用頂くことができます。

すべての人に最高の余暇を

フィールズ株式会社 www.fields.biz
お問い合わせ先 ir@fields.biz

